



# Nagoya Central Hospital NEWS

2021

# 『名古屋セントラル病院』ニュース 初夏

## 新任医師のご紹介

4月1日付で医師2名、レジデント6名が新たに加わりましたのでご紹介いたします。

### 医 師



呼吸器内科  
(とみた ひろき)  
富田洋樹副医長

地域の先生方としっかり連携し、患者さん一人一人に最適な治療を提供できるよう日々努力して参ります。是非ご紹介をよろしくお願ひ申し上げます。



整形外科  
(すずき よしたか)  
鈴木喜貴主任医長

脊椎脊髄外科が専門です。特に難易度の高い脊柱変形矯正手術に力を入れています。脊椎疾患でお困りの患者さんがおみえになりましたら是非ご紹介ください。色々お世話になりますがお卒宜しくお願ひいたしま (⇒3面へ続きます)

### レジデント

- 消化器内科 龍見東樹 レジデント ・ 整形外科 木村良彦 レジデント
- 泌尿器科 稲葉草太 レジデント ・ 糖尿病・内分泌内科 渡邊昂汰 レジデント
- 腎臓内科 稲本菜津美 レジデント ・ 消化器外科 野本昂奨 レジデント

## 脳神経外科にてオンライン治療相談会を行っています

名古屋セントラル病院 脳神経外科では、機能神経外科に取り組んでいます。機能神経外科治療には、右記のような治療法があります。また、ボツリヌス療法も積極的に導入しています。今回、それらの治療法について気軽に相談してほしいとの思いから、オンライン（対面でも可）で常設型の相談会をはじめました。希望される治療法の概要、効果などについて、専門医がわかりやすく説明し、患者さん・ご家族の質問にお答えいたします。

**【治療法】**

**脳深部刺激療法 (DBS)・定位脳手術**

- ・パーキンソン病
- ・ジストニア
- ・痙性斜頸
- ・振戦（手足のふるえ）



**脊髄刺激療法 (SCS)**

- ・脊椎・脊髄手術後も持続する痛み
- ・足の血管障害による痛み
- ・複合性局所疼痛症候群による痛み



**バクロフェン髄注療法 (ITB)・ボツリヌス療法**

痙縮・痙性脳卒中、脊髄損傷、神経難病等、さまざまな病気やけがで出現します。





相談会日時：毎週月曜日・火曜日の16時～17時（1日1組の予約制）

方法または場所：ZOOMを使用したオンラインまたは診察室での対面

参加費：無料（通常の診察ではありません）

相談医師：脳神経外科 主任医長 竹林 成典



お問合せ：名古屋セントラル病院 TEL：052-452-3126

### 今号の主な内容

- ◆ 2面「持続グルコースモニター（CGM）を活用した糖尿病診療について」  
糖尿病・内分泌内科 科長 江口 陽子
- ◆ 3面「脊椎脊髄外科の主な治療について」 整形外科 主任医長 鈴木 喜貴

## 第102回 病診連携勉強会

## 持続グルコースモニター(CGM)を活用した糖尿病診療について

## 糖尿病・内分泌内科 科長 江口 陽子

令和3年2月16日(火)、病診連携システム登録医の先生方をお招きして勉強会を開催いたしました。勉強会の内容をまとめましたので、以下にご紹介いたします。

日本糖尿病学会では、合併症予防のための血糖コントロール目標として、HbA1c7.0%未満と定めています。しかし、2型糖尿病患者の約6割は合併症予防目標(HbA1c7%未満)を達成できていないといわれています。よりよい血糖コントロールを目指して、見逃されやすい食後の高血糖を改善するとともに、夜間の低血糖も予防していく必要があります。

一方、グルコースプロファイリングツールの現状としましては、HbA1cでは過去1~2ヶ月間の平均血糖値を反映する指標ですが、1日を通したグルコース変動を把握することはできず、またSMBG(血糖自己測定)では測定したある一時点での血糖値を把握することができますが、測定には指先穿刺の痛みや手間を伴い、夜間の測定は非常に困難です。

そこで、CGM: continuous glucose monitoring 持続グルコースモニタリングが登場し、2010年より保険適応となっております。CGMでは皮下組織にセンサー電極を留置し、間質液中のグルコース濃度を持続的に測定します。CGMのデバイスとして、フリースタイルリブレ、フリースタイルリブレプロについて説明しました(図1)。

フリースタイルリブレシステムでは最長14日間のグルコース日内変動を可視化し、より良い治療、血糖管理、療養指導につなげることができます。得られたグルコースプロファイルの評価としましては、①低グルコースのリスクはあるか?②グルコース値は目標範囲内にあるか?③グルコース値の日内変動・日差変動はあるか?という点に着目します。

当院でCGMが有効であった症例をいくつか提示させていただきました。紙面の都合上、ここではその一例のみお示しします。症例は59歳男性です。24歳の時に胃潰瘍で幽門側胃切除術(Billroth1法)を施行。糖尿病の既往はありません(HbA1c5.6%)が、他院受診時に食後1時間血糖値が200mg/dLと高値、尿糖の指摘あり当科へ紹介となりました。胃切除後のDumping症候群の可能性を疑い血糖変動確認目的でCGM評価しました。結果、食後高血糖とその後の低血糖が確認され、Dumping症候群と判断しました。αGI内服開始し、症状、血糖とも改善を認めました。

フリースタイルリブレを使用することが考慮される患者像につき、(図2)にお示しします。

これをふまえて、連携医の先生方よりCGM使用目的で当科へのご紹介をご検討いただきたい患者様像としましては、内服・インスリンを使用してもなかなか血糖コントロールが安定しない患者様、認知症があり自己血糖測定が難しい患者様、血糖測定の回数を減らしたい患者様などです。CGMのデータを解析し、医師・糖尿病看護認定看護師・管理栄養士などのチームでしっかり療養指導し、治療法の変更などのご提案をさせていただきます。

CGMの利用によりSMBGでは把握しづらい夜間低血糖、無自覚性低血糖、早朝暁現象・Somogyi効果、食後高血糖などの血糖変動パターンを可視化することで、糖尿病治療に役立てることが可能です。

今後とも名古屋セントラル病院糖尿病・内分泌内科への患者様のご紹介をよろしくお願い申し上げます。

(図2)

(図1) CGMのデバイスについて

名称	フリースタイル リブレ	フリースタイル リブレプロ
外観	黒色	白色
SMBG	血糖自己測定機能 あり	血糖自己測定機能 なし
使用場所	本体は、患者が在宅で使用	本体(リーダー)は院内で保管し、診察室で使用
本体(リーダー)	本体は実質無料 患者各個人1台ずつ必要	本体(リーダー) 7089円 別患者に同時・繰返し使用可
保険適応	在宅自己注射管理指導料 (1型糖尿病で最大1490点/月、2型糖尿病で830点/月)	皮下連続式グルコース測定 700点+電極価格の償還
用途	外来通院患者の毎日の血糖測定に利用	低血糖等で調節が難しい患者等で単回使用

FreeStyleリブレを使用することが考慮される患者像

## 継続使用

- ① 強化インスリン療法でも血糖変動が大きい患者
- ② 生活が不規則で血糖が不安定な患者
- ③ スポーツや肉体的作業など活動量が多く血糖が動揺しやすい患者
- ④ 低血糖対策の必要度が高い患者、など

## 短期的また間歇的

- ① インスリンを新規に開始する患者
- ② 治療内容の変更(薬剤の追加・変更、薬剤用量の増減など)を行う患者
- ③ 食事や運動などが血糖変動に及ぼす影響を理解させて生活習慣改善に向けて教育的指導を行いたい患者
- ④ 手術や歯科処置などで短期間に血糖を改善すべき患者
- ⑤ シックデイの場合、など

# 脊椎脊髄外科の主な治療について

すずき よしたか

**整形外科 主任医長 鈴木 喜貴**

脊椎脊髄外科は、脊椎、脊髄、脊椎周囲の末梢神経に発症する疾患で主に外科的治療を必要とする疾患を治療対象としています。疾患の種類は稀な病気も含めると多岐にわたりますが、代表的な疾患の治療をご紹介します。

## ◆椎間板ヘルニア

治療は神経麻痺がなければまずは保存治療を行います。安静、消炎鎮痛剤や神経痛を改善する薬を使用します。椎間板ヘルニアは徐々に吸収され症状が改善するケースが多く、治療成績も良好です。治療抵抗性や麻痺がある場合は手術適応となります。また、近年、腰椎椎間板ヘルニア治療薬として注射剤が使用可能となりました（椎間板内酵素注入療法）。全身麻酔や皮膚切開の必要がなく、比較的安全に行える低侵襲な治療です。治療成績も良好ですが、治療効果出現まで日数を必要とし、手術治療に比べると確実性は劣ります。手術療法は数cmの切開で短時間のため侵襲も少ないですが、入院治療が必要となります。

## ◆脊柱管狭窄症

症状が軽度の場合は理学療法、コルセット、消炎鎮痛剤、血管拡張剤などの保存治療を行います。これらの治療に抵抗性の場合や運動麻痺・排尿障害などがある場合には外科的治療の適応になります。術式は病態に応じて様々ですが神経除圧術または脊椎固定術が行われます。

## ◆頚椎症性脊髄症（頚髄症）・頚椎後縦靭帯骨化症

四肢の痺れや箸や書字が困難になるなど、主に上肢中心の運動障害が出現します。進行性のため、すみやかに手術が必要です。手術は頚椎後方から神経の通り道を広げる椎弓形成術がよく行われます。安全に短時間で行うことができ、治療成績も良好です。また、頚椎症性神経根症とは脊髄症状ではなく、脊髄から分岐した末梢神経が圧迫され神経症状を来す疾患で、まずは頚椎カラーなどによる頚部の安静、内服薬などによる保存治療を行います。大半はこの保存治療により回復しますが、症状の改善が得られない場合には手術の適応となります。

## ◆脊柱変形

脊柱変形は脊椎の配列に異常を来すことにより、このバランスが崩れ、外見的な姿勢の異常、痛みによる姿勢の維持困難などの障害をきたします。小児の側弯症（先天性や特発性など）では変形が進行する前に治療介入が必要な場合があり、脊椎専門医の受診が必要です。加齢変性による変性側弯症では腰背部痛や神経障害、姿勢による障害（立位歩行障害や逆流性食道炎、前方注視できないなど）などで保存治療抵抗性の場合に手術適応となります。変形した脊柱は関節の柔軟性がなくなっているため手術では十分な組織の剥離を行い、椎骨に金属製のスクリューを挿入して変形を矯正し金属製のロッドで固定します。手術により姿勢が改善し立位、歩行が痛みなく可能となり神経痛なども改善しますが、手術は長時間に及ぶことが多く、輸血も必要となります。また、脊椎の可動性は消失するため腰を曲げるなどの動作ができなくなります。生活環境、家族構成など踏まえて決定する必要があります。

脊椎脊髄外科は急速に進歩してきました。新たな手術方法や様々な医療機器の開発により、過去には困難であった疾患の治療も可能となってきています。脊椎疾患でお困りの方がいらっしゃいましたら、是非当科にご相談ください。

# インターネット診療予約（カルナコネット）のご案内 ～放射線科検査（CT単純）予約もとれるようになりました～

地域医療連携 C@RNA Connect

## インターネット診療予約の導入メリット

**便利**

**24時間、365日いつでも予約が可能です**  
操作もとても簡単で、空いていれば翌日の予約も可能です！

**早い**

予約の空き状況を確認しながら  
その場で予約がとれるので**お待たせしません**  
(診療科、各科医師を指定して予約できます)

**無料**

お手持ちのインターネット端末で使用でき、  
登録・利用料はかかりません！

## 先生方の予約作業負担の軽減に繋がります！！

ご利用には、ID・パスワードが必要です。お申込書をお送りしますので下記までご連絡ください。

お問い合わせ先 名古屋セントラル病院 地域・法人連携室

TEL：052 - 452 - 3196

## Event

### 第104回病診連携勉強会

日時：令和3年6月15日（火）14：00～

会場：名古屋セントラル病院 2階 多目的ホール

講師：脳神経内科 科長 後藤 敦子

テーマ：脳梗塞総論

日本医師会生涯教育講座 カリキュラムコード：78（脳血管障害後遺症）

#### ■病院理念

- 1 安全で質が高く、快適でまごころのこもった患者本位の医療
- 2 健全な病院経営による地域社会への貢献
- 3 協力、責任感、積極性にあふれた活力ある病院づくり

#### ■ビジョン

- 1 地域の中核病院として、常に先進的で専門的、良質で効率的な急性期医療を提供する
- 2 医学的根拠に基づく医療を確実に実践し、部門や職種を超えた安心で信頼感のあるチーム医療を提供する
- 3 充実した救急医療と予防医療を提供する
- 4 地域の医療機関と綿密に連携し、受診される皆さまに最適な医療環境を提供する
- 5 各々が医の倫理を徹底し、日々研鑽するとともに医療人の育成に努め、信頼され選ばれる病院をつくる

編集：名古屋セントラル病院 地域・法人連携室

〒453-0801 名古屋市中村区太閤三丁目7番7号 TEL:052-452-3165（代表） FAX:052-452-3182

E-mail:hospital@jr-central.co.jp URL:http://nagoya-central-hospital.com